

京都府の地震活動

令和7年（2025年）8月

第 38 巻 8 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 2
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表	・・・ 3
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度分布図	・・・ 4
【地震一口メモ】京都府内の活断層について	・・・ 7

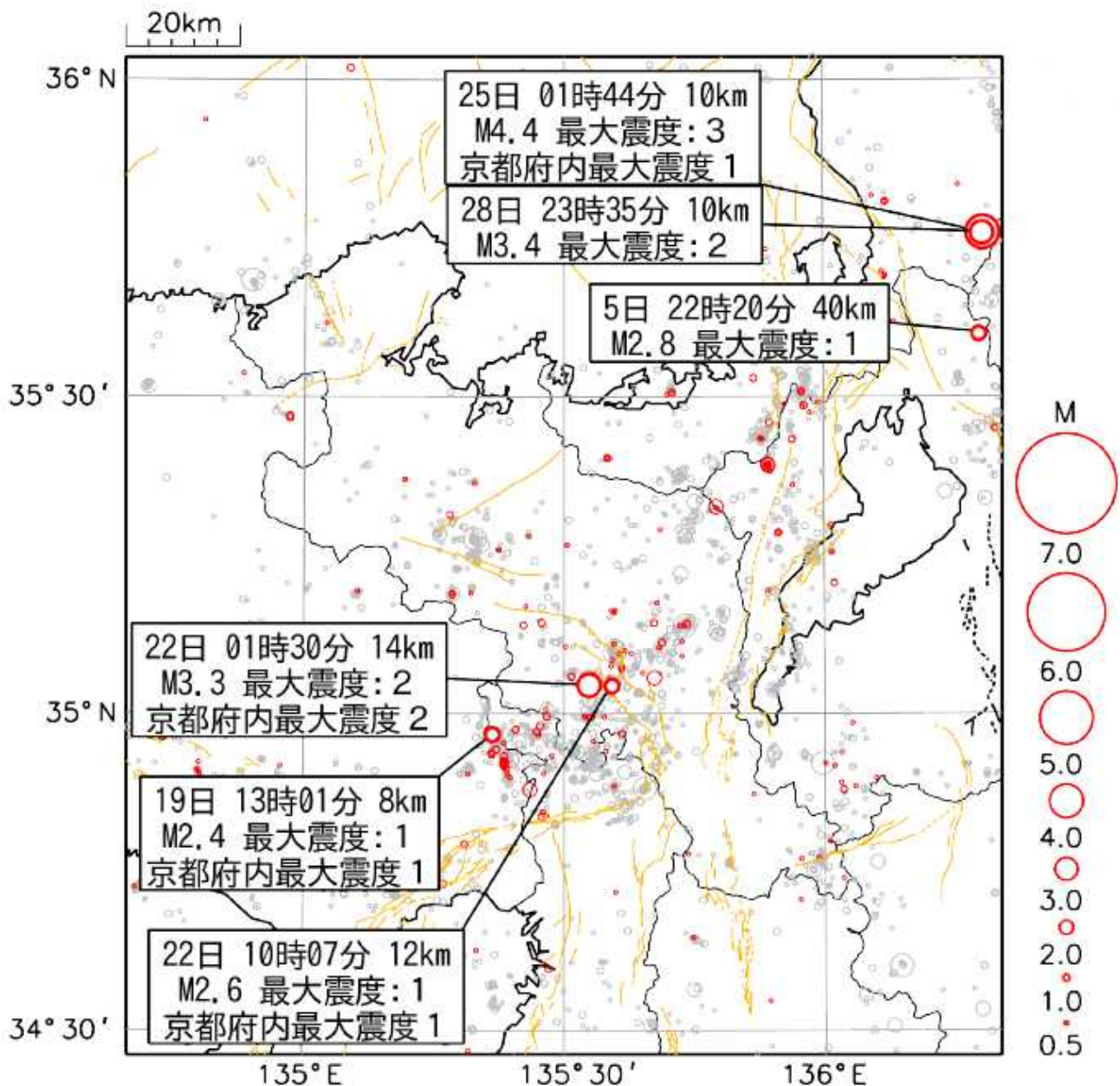
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・（2024年9月1日～2025年8月31日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2025年8月の地震を赤く表示（総数295）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

概況

8 月中、震央分布図内で観測したマグニチュード 2.0 以上の地震は 19 回、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 6 回でした（7 月はそれぞれ 10 回、1 回）。

京都府内で震度 1 以上を観測した地震は 4 回でした（7 月は 0 回）。

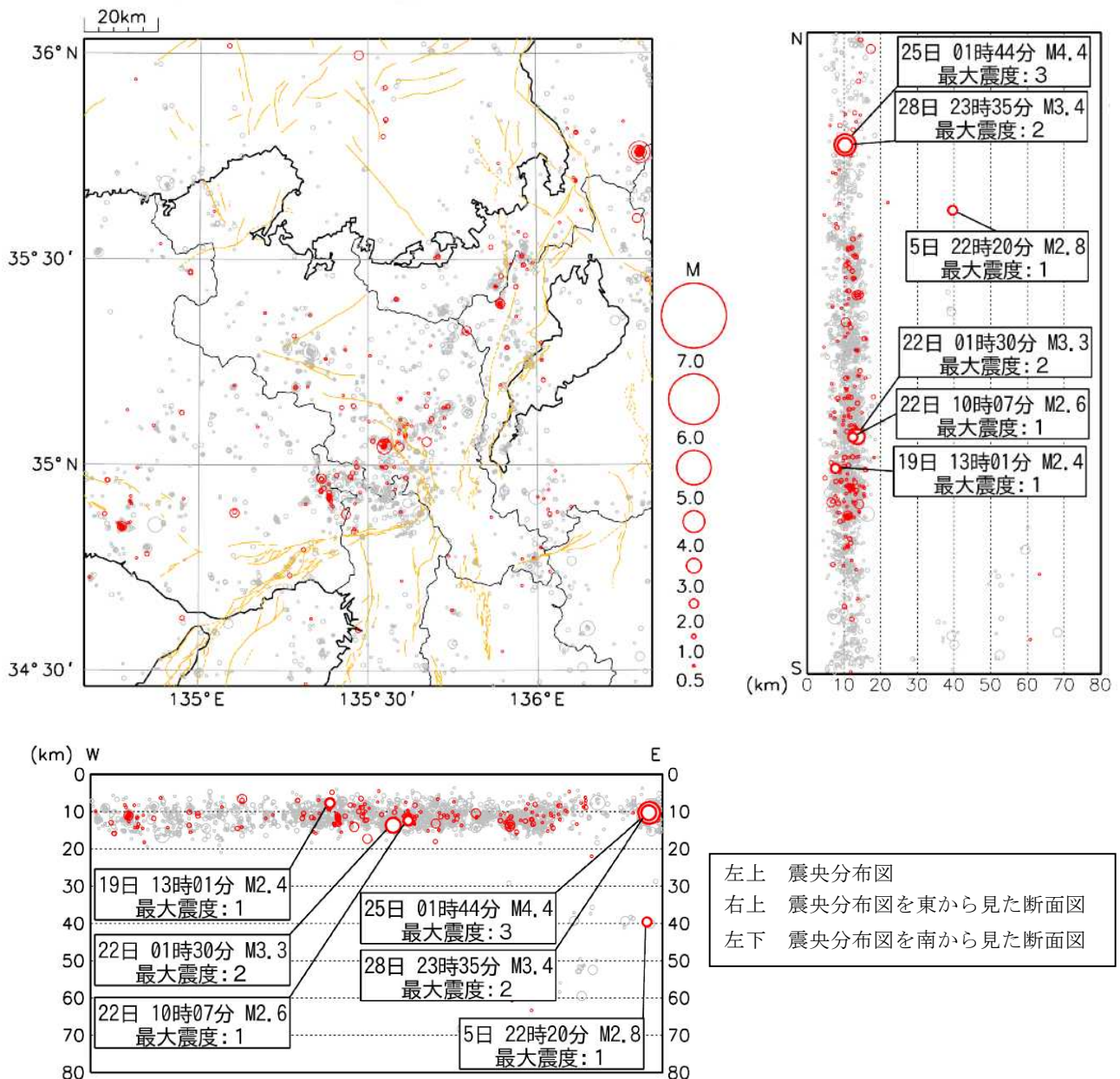
19 日 13 時 01 分 大阪府北部の地震（深さ 8km、M2.4）により、京都府亀岡市で震度 1 を観測したほか、大阪府、兵庫県で震度 1 を観測しました。

22 日 01 時 30 分 京都府南部の地震（深さ 14km、M3.3）により、京都府亀岡市で震度 2 を観測したほか、京都府、大阪府、兵庫県で震度 1 を観測しました。

22 日 10 時 07 分 京都府南部の地震（深さ 12km、M2.6）により、京都府亀岡市で震度 1 を観測しました。

25 日 01 時 44 分 福井県嶺北の地震（深さ 10km、M4.4）により、京都府京丹後市・城陽市・京田辺市・宇治田原町で震度 1 を観測したほか、東海・甲信越・北陸・近畿地方にかけて震度 3～1 を観測しました。

震央分布図、断面図（マグニチュード 0.5 以上、深さ 0～80km）



- ・（2024年9月1日～2025年8月31日、深さ 0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2025年8月の地震を赤く表示（総数295）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度 1 以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

京都府で震度 1 以上の揺れを観測した地震の震度一覧表（2025 年 8 月）

番号	観測日時		震央地名	北緯	東経	深さ	規模
	月 日	時 分		(度分)	(度分)	(km)	(M)
①	8月19日	13:01	大阪府北部	34° 58.0'	135° 21.7'	8	2.4
②	8月22日	01:30	京都府南部	35° 02.7'	135° 32.8'	14	3.3
③	8月22日	10:07	京都府南部	35° 02.6'	135° 35.5'	12	2.6
④	8月25日	01:44	福井県嶺北	35° 45.5'	136° 18.5'	10	4.4

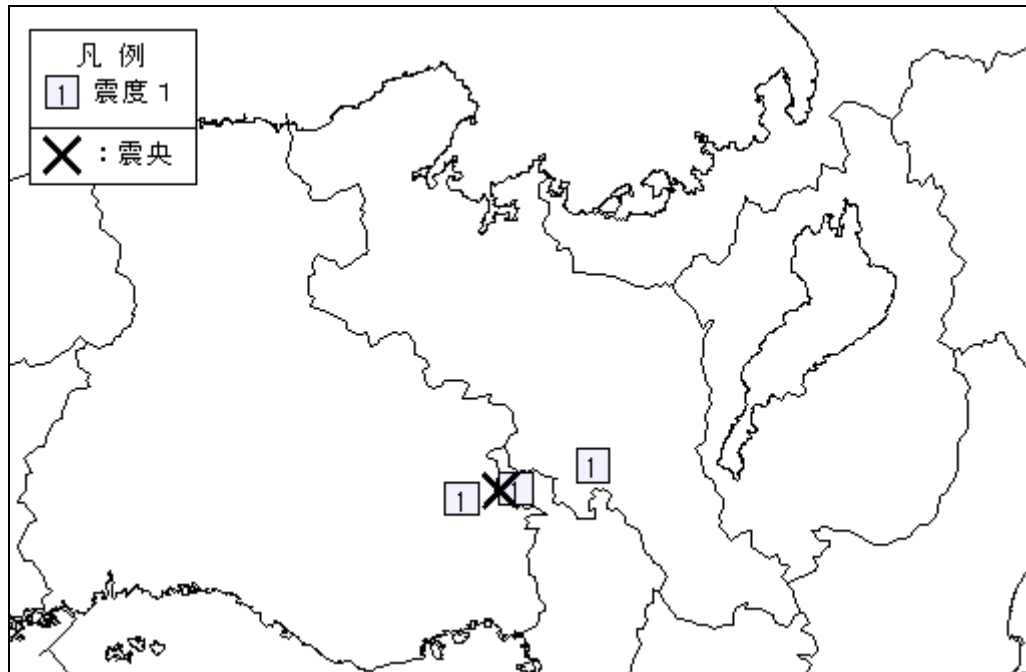
地域	震度観測点	所属	各地の震度			
			①	②	③	④
北 部	福知山市内記	気	-	-	-	-
	福知山市長田野町	防	-	-	-	-
	福知山市三和町千束	自	-	-	-	-
	福知山市夜久野町額田	自	-	-	-	-
	福知山市大江町河守	自	-	-	-	-
	舞鶴市下福井	気	-	-	-	-
	舞鶴市浜	防	-	-	-	-
	舞鶴市北吸	自	-	-	-	-
	綾部市若竹町	自	-	-	-	-
	宮津市柳縄手	自	-	-	-	-
	伊根町亀島	防	-	-	-	-
	伊根町日出	自	-	-	-	-
	京丹後市弥栄町吉沢	気	-	-	-	-
	京丹後市久美浜町広瀬	防	-	-	-	1
	京丹後市峰山町	自	-	-	-	-
	京丹後市大宮町	自	-	-	-	-
	京丹後市丹後町	自	-	-	-	-
	京丹後市久美浜市民局	自	-	-	-	1
	京丹後市網野町	自	-	-	-	-
	京丹後市弥栄町溝谷	自	-	-	-	-
南 部	与謝野町加悦	自	-	-	-	-
	与謝野町岩滝	自	-	-	-	-
	与謝野町四辻	自	-	-	-	-
	京都北区大宮西脇台町	自	-	1	-	-
	京都上京区藪ノ内町	自	-	-	-	-
	京都左京区広河原能見町	防	-	-	-	-
	京都左京区田中	自	-	-	-	-
	京都中京区西ノ京	気	-	1	-	-
	京都中京区河原町御池	自	-	-	-	-
	京都東山区清水	自	-	-	-	-
	京都下京区河原町塩小路	自	-	-	-	-
	京都南区西九条	自	-	-	-	-
	京都右京区京北周山町	自	-	1	-	-
	京都右京区太秦	自	-	1	-	-

地域	震度観測点	所属	各地の震度			
			①	②	③	④
南 部	京都伏見区竹田	自	-	-	-	-
	京都伏見区醍醐	自	-	-	-	-
	京都山科区安朱川向町	防	-	-	-	-
	京都山科区西野	自	-	-	-	-
	京都西京区榎原	自	-	1	-	-
	京都西京区大枝	自	-	1	-	-
	宇治市宇治琵琶	気	-	-	-	-
	宇治市折居台	防	-	-	-	-
	亀岡市安町	気	1	2	1	-
	亀岡市余部町	防	-	1	-	-
	城陽市寺田	自	-	-	-	1
	向日市寺戸町	自	-	-	-	-
	長岡京市開田	自	-	-	-	-
	八幡市八幡	自	-	-	-	-
	大山崎町円明寺	自	-	-	-	-
	久御山町田井	自	-	-	-	-
	京田辺市田辺	自	-	-	-	1
	井手町井手	自	-	-	-	-
	宇治田原町立川	自	-	-	-	1
	笠置町笠置	自	-	-	-	-
南 部	和束町釜塚	自	-	-	-	-
	精華町南福八妻	自	-	-	-	-
	南山城村北大河原	自	-	-	-	-
	京丹波町坂原	気	-	-	-	-
	京丹波町橋爪	自	-	-	-	-
	京丹波町本庄	自	-	1	-	-
	京丹波町蒲生	自	-	-	-	-
	南丹市美山町島	自	-	-	-	-
	南丹市日吉町保野田	自	-	1	-	-
	南丹市八木町八木	自	-	1	-	-
	南丹市園部町小桜町	自	-	1	-	-
	木津川市加茂町里	自	-	-	-	-
	木津川市木津	自	-	-	-	-
	木津川市山城町上粕	自	-	-	-	-

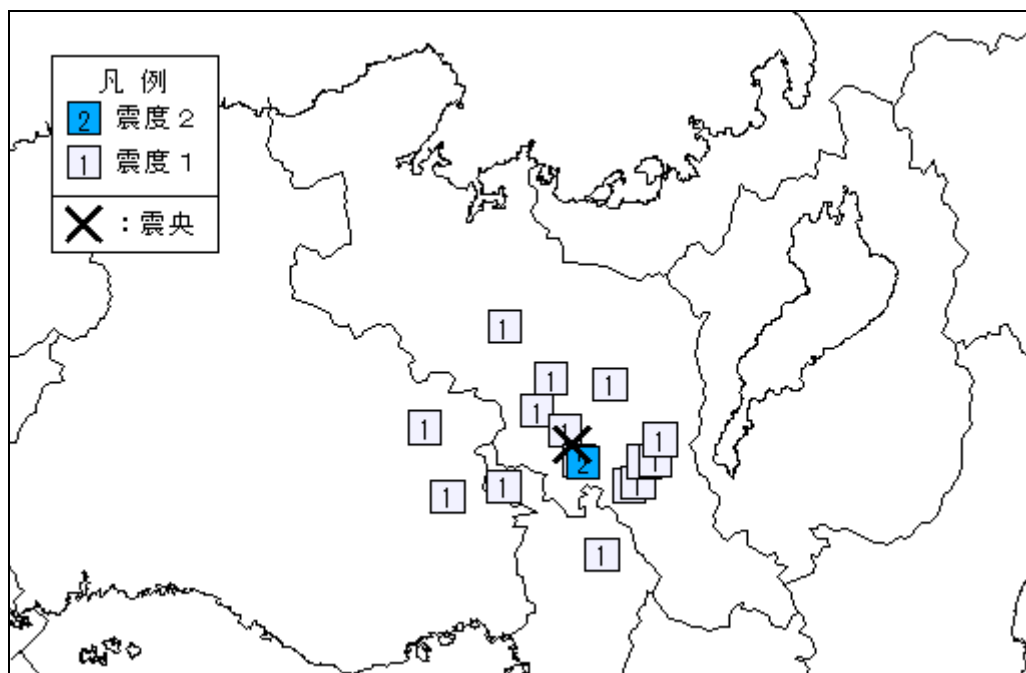
注 1：所属のうち、「気」は「気象庁」、「防」は「国立研究開発法人防災科学技術研究所」、「自」は「自治体」を示しています。

注 2：表○数字は、8 月に京都府内で震度 1 以上の揺れを観測した地震番号を表しています。

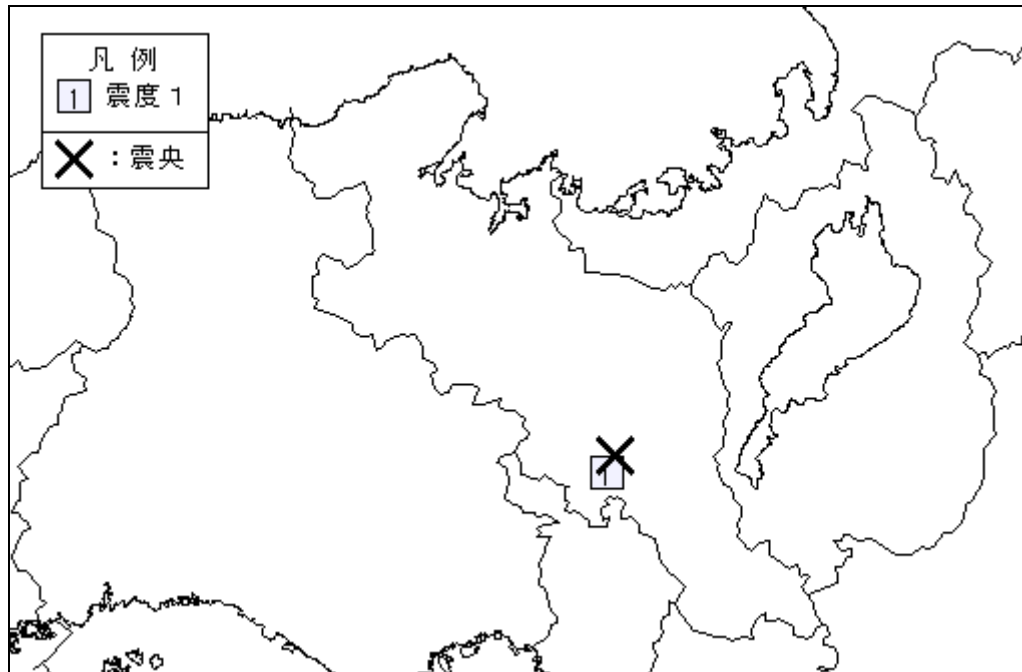
① 8 月 19 日 13 時 01 分 大阪府北部の地震（深さ 8km、M2.4）の震度分布図（観測点別）



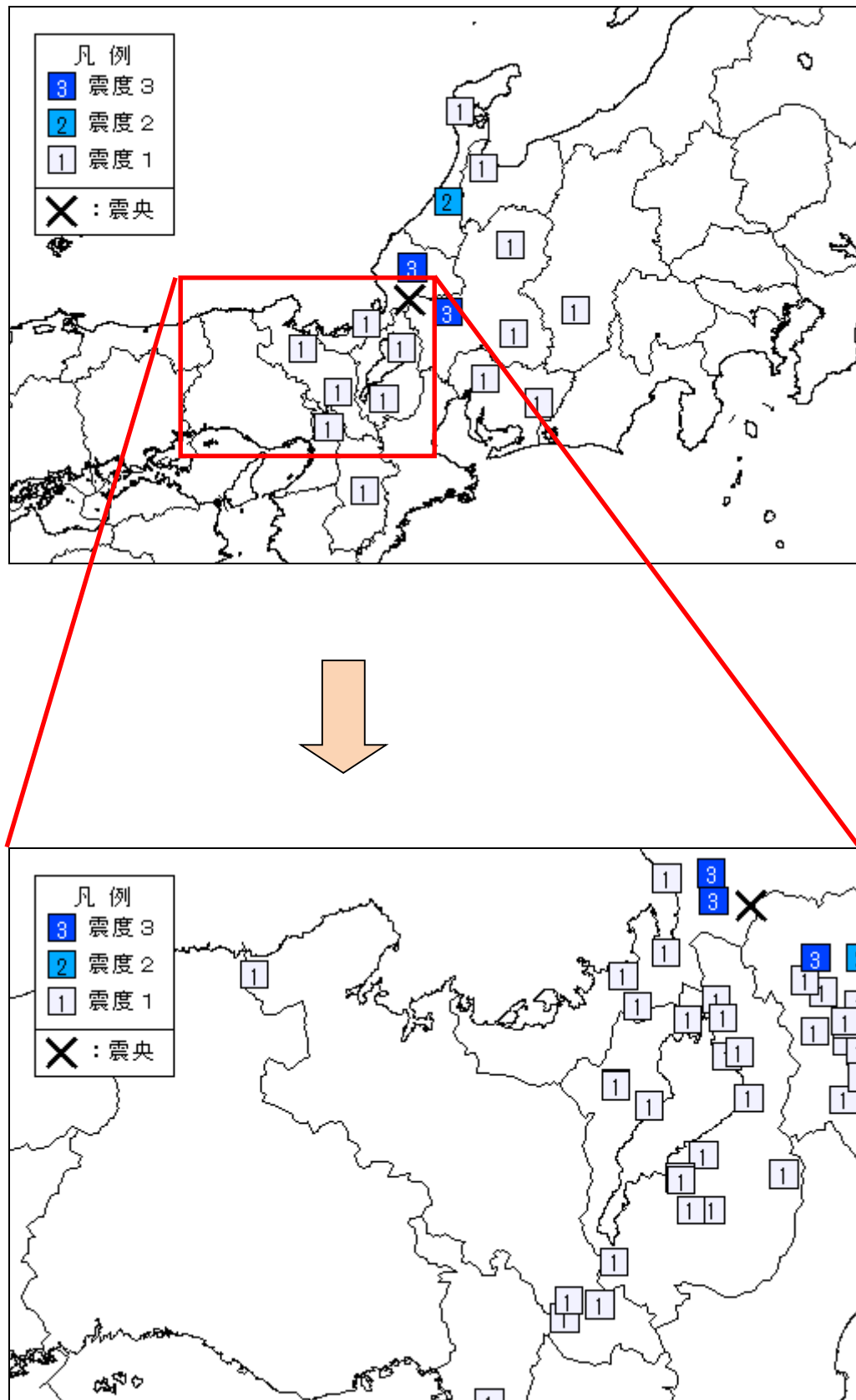
② 8 月 22 日 01 時 30 分 京都府南部の地震（深さ 14km、M3.3）の震度分布図（観測点別）



③ 8 月 22 日 10 時 07 分 京都府南部の地震（深さ 12km、M2.6）の震度分布
図（観測点別）



④ 8 月 25 日 01 時 44 分 福井県嶺北の地震（深さ 10km、M4.4）の震度分布図（上図：地域別、下図：観測点別）



【地震一口メモ】

京都府内の活断層について

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれが別々の方向に年間数 cm の速度で移動しています（プレート運動）。日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかりあっており、岩盤の中に大きなひずみが蓄えられています（図 1）。そのひずみが限界に達したときに岩盤が割れ（断層）地震が発生します。また、過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と呼びます（図 2）。

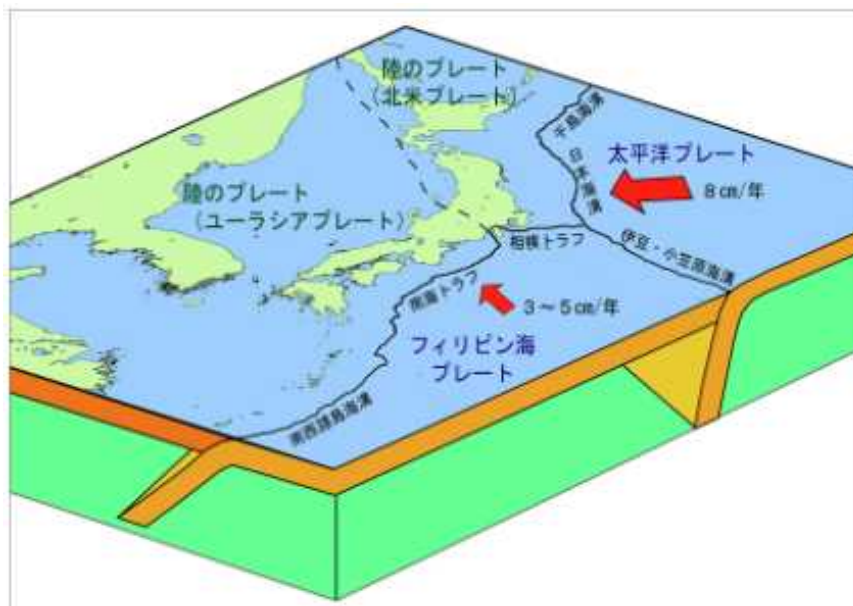


図 1 日本付近のプレートの模式図（気象庁 HP「地震発生のしくみ」より）

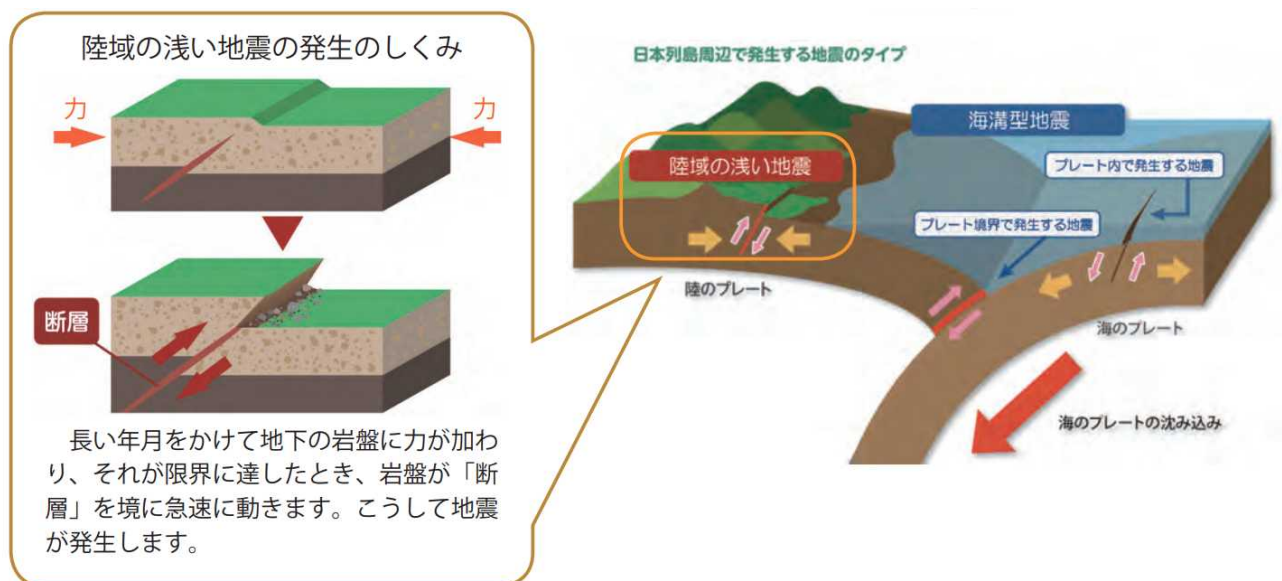


図 2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ＜陸域の浅い地震の発生のしくみ＞（パンフレット「活断層の地震に備える -陸域の浅い地震-」より）

政府の地震調査研究推進本部では、規模の大きい地震が発生する可能性のある全国約 100 の主要な活断層について、事前にその場所を特定して過去の活動履歴を調べることで、将来発生する地震の長期的な発生の予測（長期評価）を行っています（図 3、表 1）。

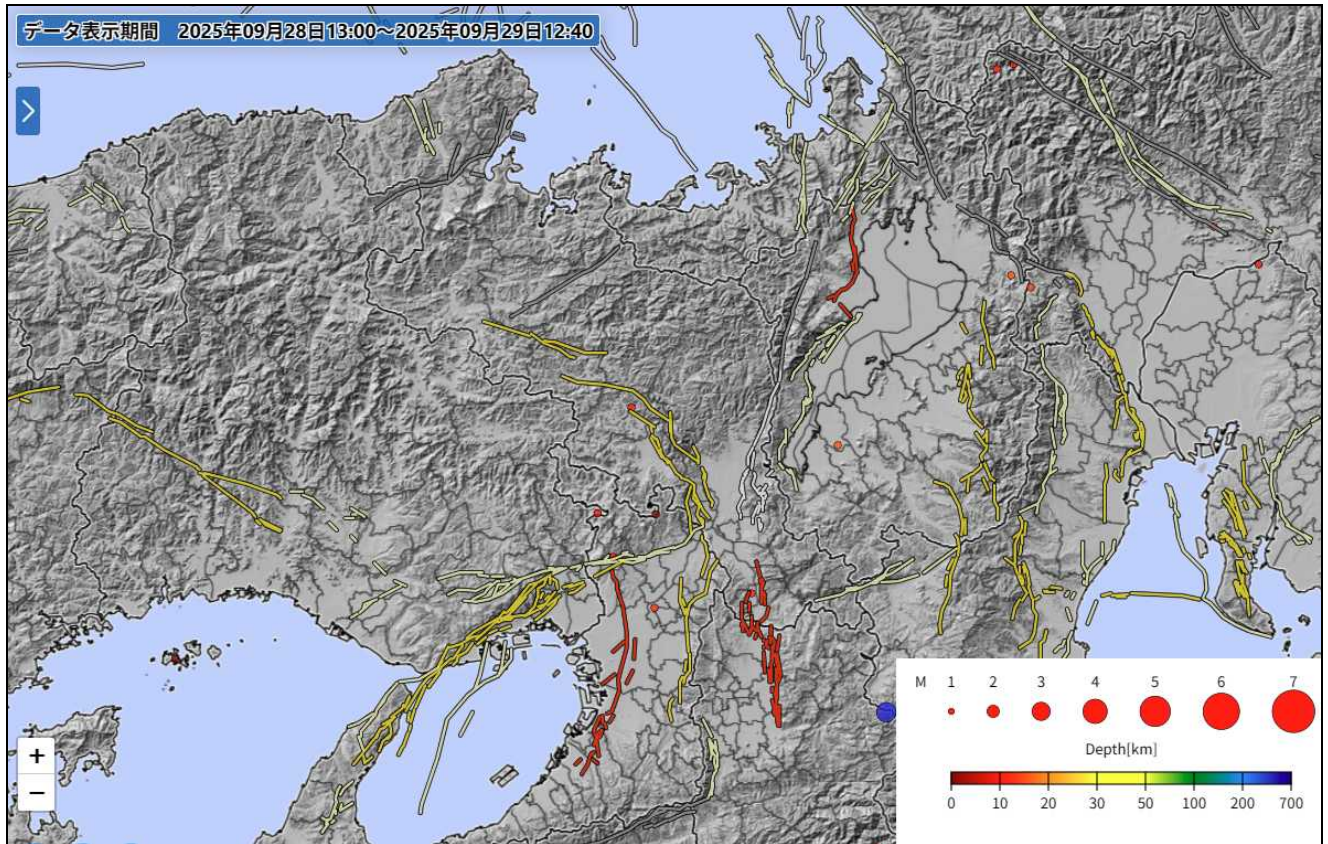


図 3 震央分布図<活断層表示>（気象庁 HP より）

表 1 主要活断層帯の長期評価の概要（算定基準日 令和 7 年（2025 年）1 月 1 日）

都道府県	断層帯名 (起震断層/活動区間)	よみかた	長期評価で 予想した 地震規模 (マグニチュード)	我が国の主な 活断層における 相対的評価 ^(注4)		地震発生確率 ^(注1)			地震後 経過率 ^(注2)	平均活動間隔
				ランク	色	30年以内	50年以内	100年以内		最新活動時期
京都府	木津川断層帯	きづがわだん そうたい	7.3程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.007-0.04	約4,000-25,000年 1854年伊賀上野地震
	三方・花折断層帯 (三方断層帯)		7.2程度	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.06-0.1	約3,800年-約6,300年 1662年の地震
	三方・花折断層帯 (花折断層帯/北部) ^(注19)	みかた・はな れだんそうたい	7.2程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 1662年の地震
	三方・花折断層帯 (花折断層帯/中南部)		7.3程度	A*ランク		ほぼ0%～0.6%	ほぼ0%～1%	ほぼ0%～2%	0.2-0.7	約4,200-6,500年 約2,800年前以後、6世紀以前
	山田断層帯 (主部)	やまだだん そうたい	7.4程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 3,300年前以前
	山田断層帯 (郷村断層帯)		7.4程度 もしくはそれ以上	Zランク		ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	0.007-0.01	10,000-15,000年程度 1927年北丹後地震
	奈良盆地東縁断層帯 ^(注28)	ならぼんち えんだん そうたい	7.4程度	S*ランク		ほぼ0%～5%	ほぼ0%～7%	ほぼ0%～10%	0.2-2.2	約5,000年 約11,000年前以後、約1,200年前以前
	三峠・京都西山断層帯 (上林川断層)		7.2程度	Xランク		不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 ^(注3)	不明 不明
	三峠・京都西山断層帯 (三峠断層) ^(注5)	みとけ・き やうと にしや まだん そう たい	7.2程度	Aランク		0.4%～0.6%	0.7%～1%	1%～2%	不明	5,000-7,000年程度 3世紀以前
	三峠・京都西山断層帯 (京都西山断層帯)		7.5程度	A*ランク		ほぼ0%～0.8%	ほぼ0%～1%	ほぼ0%～3%	0.3-0.7	約3,500-5,600年 約2,400年前以後、2世紀以前
	有馬一高槻断層帯	ありまーた きだん そう たい	7.5程度 (7.5±0.5)	Zランク		ほぼ0%～ 0.04%	ほぼ0%～0.1%	ほぼ0%～0.4%	0.2-0.4	1,000-2,000年程度 1596年慶長伏見地震

・複数の都道府県に位置している主要活断層帯については、薄緑色で示しています。経年等により値が変わったものは薄い青色で示しています。

注 1：確率値は有効数字 1 桁で記述している。ただし、30 年確率が 10% 台の場合は 2 桁で記述する。また「ほぼ 0%」とあるのは、10－3 %未満の確率値を表す。

注 2：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると 1.0 となる。

注 3：平均活動間隔が判明していない等の理由より、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。

注 4：活断層における今後 30 年以内の地震発生確率が 3%以上を「S ランク」、0.1～3%を「A ランク」、0.1%未満を「Z ランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「X ランク」と表記している。地震後経過率（注 2）が 0.7 以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。Z ランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。

注 5：最新活動の時期が特定できていないため、通常の活断層評価で用いている計算方法（地震の発生確率が時間とともに変動するモデル：BPT 分布モデル）ではなく、地震発生確率が時間的に不変とした考え方（ポアソン過程）により長期確率を求めている。同じ理由から、地震後経過率も求められない。

注 19：三方・花折断層帯（花折断層帯/北部）は、平均活動間隔が不明のため、地震発生確率は求めることができないが、最新活動時期が 1662 年の地震である可能性があることから、近い将来の地震発生可能性は小さいと考えられる。

注 28：京都盆地－奈良盆地断層帯南部は、評価の結果、奈良盆地東縁断層帯と称することとしたので、ここでは奈良盆地東縁断層帯と記述した。

（出典：主要活断層帯の長期評価の概要（算定基準日 令和 7 年（2025 年）1 月 1 日）＜都道府県別＞（地震調査研究推進本部））

https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran_pref.pdf

京都府内の主要な活断層は、三方・花折断層帯、山田断層帯、三峠・京都西山断層帯などがあり、その内京都府を縦断している三峠・京都西山断層帯（赤枠）は、A ランク評価となっており、今後 30 年間で再び大きな地震の発生する確率がやや高いとされています。しかし、発生確率不明（X ランク）の活断層もあります。

では、主要な活断層から離れている場所だと安全かというところではありません。活断層は、あくまで人間による調査により、地表付近で見つかった断層のことで、長年の浸食や堆積により隠れてしまっている場合もあります。また、地震の規模がある程度大きくなければ地表に断層が現れないこともあります（図 4）。

活断層がない場所では、地震は起きない？

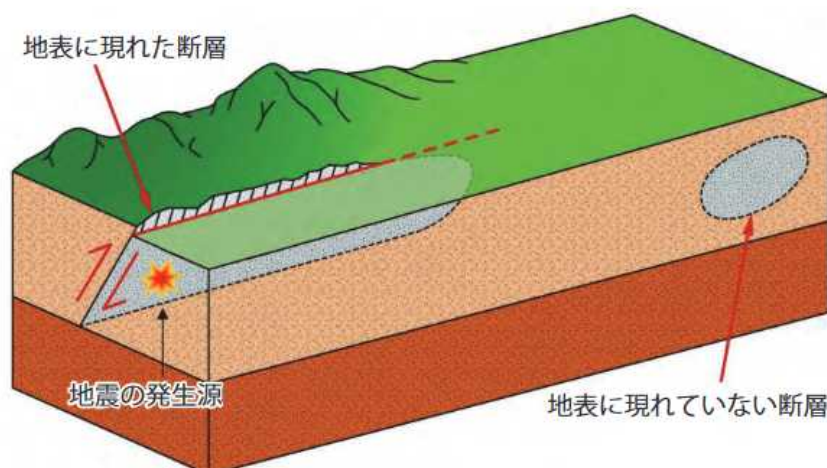


図 4 地表に現れた活断層と現れていない活断層（パンフレット「活断層の地震に備える－陸域の浅い地震－」より）

したがって、お住いの地域や防災関係機関等の場所で活断層から遠い場所でも、いつでも大きな地震が発生する可能性があります。地震調査研究推進本部の主要活断層評価は、参考にさせていただきつつも、日ごろから十分な備えをお願いします。

詳細については、気象庁 HP に「活断層の地震に備える」としてパンフレットが掲載されていますので、「近畿地方版」をご覧ください。

気象庁 HP 「活断層の地震に備える -陸域の浅い地震-

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/index.html>